

2012年度 早稲田大学 政治経済学部

日本史 解答例

I 古代・中世の史料 <易>

A 1エ 2イ 3オ 4ア

B 1三世 2庚午年籍 3定朝

どこのカンタン大学かと目を疑うような、非常に易しい問題。早大受験生なら全問正解以外はありえない。

II 江戸時代の貨幣・文化 <標準>

A [i]<c> [ii]<e> [iii]<c> [iv]<a>

[v]<d> [vi] [vii] [viii]<c>

B [ix]徳川綱吉 [x]尾形光琳 [xi]大日本史

頻出史料ばかりの I とは一転して未見史料問題。ただし、史料を読解する必要はほとんどなく、例年の難しさはなかった。A [i]は、「法恩寺」から素直に寺社奉行を選んで良いのか悩まされただろう。さらに[viii]も、赤穂事件に対する評価が問われて難しかった。これを捨てて他の問題を正解すればかまわない。[vi]は難しそうに見えて、結局<a><c>を考えるだけで正解できる。また、[vii]も込み入った計算問題ではないため、あっさり解ける。

III 自由民権運動 <やや易>

A 1エ 2ア 3オ 4エ 5オ 6ウ 7エ 8ア

B 1有司専制 2江華島事件 3森有礼

難問はA 6。ウ・エの2択にまでは絞り込めるが、そこからが難しかった。いっぽうA 7は決して難問ではない。「石陽社」は慶應義塾大学で1999年と2005年に出題されていたため、民権運動について細かい知識を求めてくる早稲田対策としても備えておきたかった。

IV 大正デモクラシー・近衛文麿 <やや易>

A 1ニ 2イ 3ハ 4ロ 5ホ 6イ 7ニ 8ハ

B a 鈴木文治 b 黎明会 c 盧溝橋事件 d 梅津美治郎

A 6の選択肢にある「尾崎秀実」は法学部で記述問題で出題されていたため、思わずまた出たのかと思った人もいただろう。確かに尾崎秀実は昭和研究会に参加していたが、この問題で問われたのは中心人物の後藤隆之助。Eランク用語なので不正解でもまったくかまわない。むしろA 2やA 8でつまづいていないだろうか。吉野作造の民本主義は、主権在民と主張しないところに特徴があるし、大東亜会議は参加国をきちんと理由付けして覚えておくべきであった。

V 1960～70年代の日本 <標準>

A 1ウ 2エ 3エ 4ウ

B 安保改定をめぐる対立から社会党右派の西尾末広らが民主社会党を結成、続いて創価学会を基盤に公明党が生まれた。70年代にはロッキード事件を機に自民党から新自由クラブが、社会党から田英夫らの社会民主連合が分立し、自民党は安定した長期政権を続けた。(120字)

政治経済学部が論述問題を出し始めたときによく使っていた、戦後の首相の所信表明演説を利用した問題。当時もそうだったが、どの内閣の演説かが意外とひっかかることがあり、それにともなって論述問題まで不正解になってしまう年もあった。今回は、史料(1)の「オリンピック」から池田勇人に誘導され、史料(3)の「日本列島改造」で田中角栄を選ばせて解答を絞り込むと「オ」を選んでしまうというワナがしかけてあった。そして、手こずったのは最後の論述問題だろう。ここ数年の易しめな問題とは一変して、かつて何度も出題されていた戦後からの出題にもどった。「多党化現象」自体はそれほど難しいテーマではないが、「語群から適切なものを用いて」という設問条件がくせ者である。「1960年代から1970年代」という条件でふるい分けなければならない。とりわけ「田英夫」を拾うのが難しかった。民主社会党・公明党・新自由クラブの3党をあげつらって筋の通った文章をつくれれば、ギリギリ合格ボーダーを超えられたのではないだろうか。

講評

基本的な問題がかなり多いため、凡ミスは許されない。漢字ミスを誘ったわけではないだろうが、「鈴木文治」と「梅津美治郎」を同じ大問内で書かせている。

「治」の字は「次」や「二」などと間違いやすい。「じ」と読まずに「ち」や「つぎ」や「に」などと音を換えて、かつ発音して覚えればミスがなくなるのだが、そうした工夫はしていただろうか。論述問題以外の正解率はかなり高いと思われる。このカンタン水準が続くとは思えないので、誤解して甘い学習にならないように気をつけてほしい。